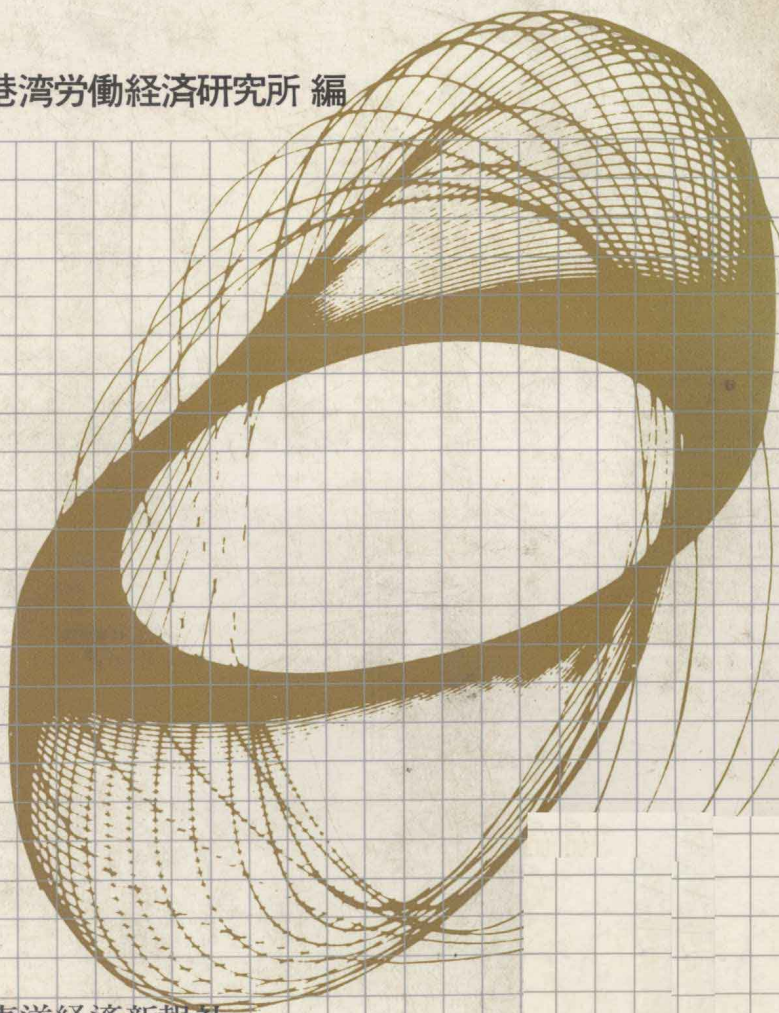


経営実務シリーズ

港 湾 の 知 識

その役割と関連業務

港湾労働経済研究所 編



東洋経済新報社



経営実務シリーズ

港湾の知識

その役割と関連業務

港湾労働経済研究所 編

東洋経済新報社

港湾の知識

昭和51年12月27日発行

編者 財港湾労働経済研究所

発行者 宇梶洋司

発行所 東京都中央区日本橋本石町1の4 東洋経済新報社

郵便番号 103 電話03(270)4111(大代表) 振替口座東京3-6518

© 1976 <検印省略> 落丁・乱丁本はお取替えいたします。
Printed in Japan.

2334-4762-5214

は し が き

港湾のイメージは、とくにそれが外国貿易港である場合、外国船がたえず入出港することによってもたらされる異国文化や情緒を感じ、そこにはエキゾチックなムードが漂っていること、海と船と汽笛などがおりなす「みなと町」を連想するという、いわばエモーションナルなうけとめかたが支配的であるように思われる。

また、これを一歩すすめて、わが国は資源に乏しいうえに人口密度が高いので、国民経済は高度な貿易依存型にならざるをえない。したがって、港湾は内外貿易と海運の発展のために、重要な役割を演ずるといふみかたである。

これは港湾の意味の平均的・一般的理解であるが、より港湾を立体的でかつ、総合的に知るためには、港湾の發揮する機能を問題としなければならない。

港湾はまず、わが国経済・社会の発展と安定にとって欠くことのできない内外貿易を実質的に支えていること、および港湾を必要とする多くの産業の基盤形成と深くかかわっていることなどである。

こうした貿易と各産業の経済・生産活動がもたらす物資の流通は、それぞれの展開にしたがって増大するとともに、また、それが港湾地域の経済圏拡大と地域経済の発展を規定するのみならず、さらに、港湾背後の都市化を促進させるのである。

港湾がこのように交通・生産・経済および社会の諸活動と深くかかわり、それを発展させるという大きな力を発揮するものであるから、この活力を利用して各港湾地域を再編成し、豊かな地域社会とあわせて調和ある国土開発に役立てようとする発想がしだいに現実のものとなりつつある。

しかし、港湾をめぐる生産活動なり、流通経済活動が拡大し展開することによる経済の発展は、同時に「不経済」も進行することとなるので、港湾を媒介する港湾都市の再開発構想、港湾都市交通の体系的整備、港湾周辺地域の環境保全および港湾と地域住民のかかわりを配慮した各種市民施設の建設、などが課題となり、やがてこれらが具体的な政策日程にのぼってくる。

この書は、このような港湾をめぐる諸問題を背景事情とし、港湾の意義とそれが果たしている経済・社会的役割についてその概要をのべ（第一、二章、喜多村担当）、ついで、港湾の重要な作用である港湾流通の現状をおもに物的施設との関連でとりあげるとともに、それらをもとに展開される港湾の業務・仕事全体を詳述する（第三、四章、関谷、松岡担当）。

また、港湾は、国民経済の維持発展にとって、必要不可欠な公共施設であるという認識から、国によせる関心も大きく、したがって、国および公共団体の公共投資によって整備されてきたという歴史的過程は、港湾特有の行政的管理を必然にし、港湾行政が一定の意味をもつようになる（第五章、松岡、関谷担当）。

さらに、港湾需要の増加と港湾機能の供給・提供関係が量的に増大し、かつ、質的にも変化する。ことによって、港湾都市および地域社会にさまざまな問題を提起することとなる（第六章、鈴木担当）。そして、このような流転の過程にある港湾は、今後どのようなようにあるべきかについて考え、その望ましい位置づけを展望（第七章、喜多村、鈴木担当）することにより、港湾の総合的・体系的知識に役立つことをねらいとして、この「港湾の知識」の結論とした。

わが国の港湾は、近代港湾としての形成のはじめから、各種の問題をかかえつつ発展してきたものであるが、港湾の発揮する諸効果がいよいよ拡大されるという今後の方向を考えると、経済・社会の発展と安定との関連で、その重要性はいっそう高まるであろうと思われる。

この書がその意味で、港湾に関心をよせられる方々の理解の一助として、何分かのお役にたつとすれば筆者らのこれにすぎるよろこびはない。

なお、この書の内容・構成については研究所が中心になって素案をつくり、関谷義男氏（港湾経済学会評議員）、鈴木暁氏（日本ビジネスオートメーション（株）研究員）、松岡英郎（港湾労働経済研究所

研究員）にご検討・ご執筆を依頼して編集する形をとった。改めて、ご協力をいただいた諸氏に謝意を表したい。

おわりに、かずかずの関係資料および写真の提供について、格別のご配慮をいただいた（社）日本港運協会調査広報委員会、全国港湾労働組合協議会、大蔵省関税局、労働省職業安定局、運輸省港湾局その他の関係先に対し、厚くお礼を申しあげるしだいである。

昭和五十一年一二月

（財）港湾労働経済研究所

所長 喜多村昌次郎

——経営実務シリーズ——

新版輸出の実務	輸出マーケティングから決済まで	三井物産業務本部編	1200円
安全管理の実務	災害撲滅の具体策	山崎竹吉著	980円
スタッフの活用法	上手な使い方 方便な方	加久間岩夫著	480円
マーケティング入門	お客を満足させる 決め手はなにか	新井喜美夫著	1100円
企業分析の要点	経営の見方 とらえ方	阿部斗毛著	1100円
工場管理の要点	現場のコストは こうして下げる	高仲 顕著	750円
商標の管理	国際化時代の 商標戦略	小林十四雄著	480円
会社規程の考え方	企業をいかに 規程のあり方	郷原 弘著	450円
女子社員の管理	私は上司を 替えてほしい	木下鎮夫 共著 松本 健	950円
会社規程の作り方	社内法律 の表現法	郷原 弘著	450円
経営情報の管理	明日の企業に どう生かすか	太田文平著	450円
ビジネスマン入門	新しく職場に入 る人のために	川口輝武著	450円
管理工学入門	1から 10まで	渡辺一司著	480円
企業合理化の進め方	効果的経営の 実践的手法	浅野行雄著	450円
マーケティング・リサーチの実務	市場情報のつかみ方、生かし方	種子田実 共著 橋本家利	480円
職務権限のあり方	日本的組織で どう生かすか	泉田健雄著	600円
企業内教育の進め方	定型訓練からコン ピュータ教育まで	古閑正元著	480円
取締役会・常務会	実際の機能と 効果的運営	加久間岩夫著	480円
経営者マニュアル	効果的運営 の基本条件	菅谷重平著	480円
課長・係長の経営実務		加久間岩夫著	1100円
輸入取引の要点	実務の基本を 理解するために	中村 弘著	1000円
海外出張	その心得 と管理	坂元宇一郎著	980円
部下の育成と管理		加久間岩夫著	900円
高人件費時代の労務改善	人材活用の 要点と取組み方	田川義雄著	980円

——経営実務シリーズ——

職場を動かす労務管理	—現場把握のための課題— 奥田健二著	550円
文書管理の要点	—ビジネス文書の作成・整理・保管— 川口輝武著	480円
輸入の実務	—輸入契約から開発輸入まで— 住友商事調査室編	600円
セールスマンの管理	—なりゆき管理からシステム管理へ— 村山武久著	1000円
財務管理の要点	古川栄一著	900円
PERT入門	—日程計画の革命的手法— 刀根 薫著	1000円
コンピュータ会計	—会計業務にどんな変化が起こるか— 池田善行著	700円
ビジネスマンのOR	菅波三郎著	700円
貿易の実務	—基礎知識から紛争解決まで— 森井 清著	950円
疎外と自己管理	—企業のなかでどう生きる— 山田雄一著	600円
手形の基礎知識	大佐正之著	1000円
組織・権限の考え方	—現代経営組織論— 泉田健雄著	900円
企業内コミュニケーションの管理	小林末男著 —断絶と不信をなくすために—	980円
改善のマネジメント	—経営の流れを変える— 川辺勝次著	550円
企業内教育の手引き	—能力開発と人材の育成— 岸 恒男著	1000円
PRの設計	—企業信頼性創造の要点35— 加田三郎著	1100円
セールス・マネジャーの実務	村山武久著 —目標達成への行動基準—	1000円
顧客管理の要点	—上手なお得意様づくり— 東海銀行経営相談所編	980円
職場の安全管理	—作業環境の快適化と冗費の排除— 盛岡英治郎著	1000円
リースの実務	—その仕組みと活用法— (増補) 南部二三雄著	1000円
海外駐在員の養成・管理	坂元宇一郎著 —その実態と新しいあり方—	950円
新版 経理実務の秘訣	元吉重成著	1000円
海外現地生産のすすめ方	茂木友三郎著 —調査・立案・設立・操業・経営—	950円
これからの労務管理	—激動期のキーポイント— 西宮輝明著	950円

目次

はしがき

1 港湾とはなにか 1

港湾はなぜ重要か 1

どのような港湾があるか 4

港湾の類型 7

2 港湾の役割・機能 17

一 港湾の役割 17

3

港灣物流の現状とその施設

港灣のはたらき	17
海運と港灣と陸運の関係	20
経済活動と港灣	24
二 港灣機能のうつりかわり	27
港灣都市の形成	27
大都市港灣問題の台頭	31
経済社会の要請によって変わる港灣機能	36
三 港灣機能の形成と提供	40
だれが港灣を管理するか	40
港灣産業	44
港灣労働	48
一 港灣流通の現況と推移	55
こんにちの港灣物流	55
港灣物流の推移	57
二 港灣の施設と物流機能	62
港灣法と港灣施設	62

4

港湾の業務・仕事

一 海運と港湾貨物の流れ

海上運送と港湾貨物 106

海運業と港運業の結びつき 109

港湾の物流と商流 112

二 港湾運送事業の業務

一般港湾運送事業の業務 116

単独専業者の業務 119

施設整備のうつりかわり 64

港湾整備の実態 68

輸送革新に対応する港湾整備 74

三 経営的機能としての港運と倉庫

港湾運送事業とは 78

高度成長初期の港運業 81

輸送革新下の港運業 85

港湾運送業の現状 90

港湾運送事業法と諸規制 93

港湾倉庫とその機能 100

海運貨物取扱業の業務 125

検数、鑑定、検量の業務 129

専用埠頭、専門埠頭 133

三 港湾関係官庁と諸手続き 135

入出港手続き 136

通関手続き 137

検疫手続き 143

四 内航海運と港湾 145

内航海運と港湾の現状と問題点 146

長距離フェリーの将来 152

五 港湾の職場と労働者 154

港湾労働者と港湾労働法 154

港湾の労働組合 162

港湾の福利厚生 169

5 港湾行政 175

一 港湾行政の現状と問題点 177

港湾に係る諸官庁 177

6

港灣行政の問題点	183
二 港灣行政の歴史	186
税関の開設から第二次世界大戦まで	186
戦後の港灣行政	191
三 港灣行政の将来	200
地域社会と港灣	203
一 都市化時代の港灣	204
港灣と都市の今昔	204
大都市港灣が及ぼす地域社会への影響	207
広域化する港灣流通	210
大都市港灣の物流と地域社会のはらむ問題	212
二 地域開発と工業港	213
経済成長を支えた臨海工業	213
臨海工業と港灣	215
港灣整備計画と工業港	216
大規模工業基地構想の台頭	218
三 海岸線と環境問題	222

7

これからの港湾・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231

- 海岸線の埋立て・開発 222
 東京湾夢の開発 226
 海岸線利用の見直し 227
 レクリエーション港湾の可能性 229

- 一 港湾流通のシステム化をめざして・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231
 二 港湾産業と港湾労働の今後・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 236
 三 経済減速に対応する港湾・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 241
 四 大都市港湾の未来・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 243

- 港湾再開発の方向 243
 都市環境と自然と港湾の調和をめざして 246

参 考 文 献

1 港湾とはなにか

港湾はなぜ重要か

四面海に囲まれ、資源に乏しいわが国経済社会の維持とその発展にとって、世界各国との交易は必須のことであり、その窓口となる港湾は重要な役割をになっている。

わが国は国土面積に比較して長い海岸線を持ち、国土を縦走する山脈は、耕地と有効利用地の臨海部への展開をもたらし、産業および人口を海辺地帯へ集中させつつ発展している。したがって、交通手段としての海運と港湾は、国民経済の発展のために、古くから重要な地位を占めてきた。

陸上交通の面では、古代はもとより、中世、近世を通じてその開発が停滞気味であったのは、地形・地理的条件の制約があったためである。明治五年九月になって、新橋―横浜間に最初の鉄道が開通し、ついで阪神間、京阪間としいに開設がすすめられ、やがて交通業が独立の産業部門を形成するが、それまで陸上交通は、人馬の歩行による往来と飛脚通信によって必要をみたすのみであった。

これにひきかえ、海上交通においては、輸送単位が比較的大であること、運送責任制度も古くから整備され、確立していたことなどによって、中世以降の海運は菱垣回船、樽回船、あるいは北前船の例にみられるように、それが商業資本であれ、また、問屋資本の手段としての発達であったとしても、いち早くこれらの資本と癒着しつつ、独立の交通業として自立した。

したがって、全国でおよそ三〇〇〇をこえる港湾がこれと対応し、海運と港湾との結合・連けいによって、交通、生産、経済の発展をささえてきたのである。

港湾を媒体とする交通がわが国では海運においてまず発達した。そして工業化の導入により工業生産力の拡大増強に寄与し、原料・製品市場の拡大とともに、国内・海外との交易上大きな役割を果たしてきた。

原料資源にとばしいわが国における生産力拡大の努力は、その生産力と相關する交通機関としての海運と、交通の基礎施設である港湾の調和ある整備・発達があつてはじめて達成される。また、それが製品市場の国際的規模における拡大・展開を可能とする。

したがって、これまで、港湾は海運との関係で、船舶航行の安全に役立つ避難・停泊の場所として、または海上運送のためのターミナルとしての役割が問われてきたのである。しかし港湾は、その役割のみにとどまらず、より広く経済・社会的要因と成因をそのはたらきのなかに含むことによって構成されているのである。